

議 事 録

会議の名称	令和元年度 第3回 富士見市男女共同参画社会確立協議会
開催日時	令和元年 10月17日(木) 10:00 ~ 12:10
開催場所	富士見市役所 分館3階 会議室
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・岩田広美会長、吉川幸子副会長 猪俣由美子委員、藁谷浩一委員、阿部境子委員、奥住幸江委員 川井桂子委員、鈴山美佐江委員、松田えつこ委員、大澤啓矢委員 辻口幸恵委員 ・黒須さち子専門員
	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局 人権・市民相談課 大堀課長、豊田主査
欠席者	<ul style="list-style-type: none"> ・清水昌人委員
会議次第	<p>議 事</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 同性パートナーシップ公的認証制度にかかる講演 (2) 男女共同参画に関する市民意識調査について
資料	<ul style="list-style-type: none"> (資料1) パートナーシップ制度の導入にあたり「市民の理解とは」、市民が描く社会像2019、自治体パートナーシップ制度・検討・実施状況 (資料2) 市民意識調査について、市民意識調査報告書
公開・非公開	公開(傍聴者1人)

あいさつ

- ・会長

議事

(1) 同性パートナーシップ公的認証制度にかかる講演について

レインボーさいたまの会 チーム富士見代表 池田 宏氏の講演

【講演内容】

- LGBTの説明。そのほか様々なセクシュアリティの方がいることの説明。
- 2016年の約89,000人が回答した調査で、約8.0%の方が性的マイノリティと回答があったこと。
- 2018年6月、世界保健機関（WHO）は、性同一性障害が「精神障害」の分類から除外され、「性の健康に関連する状態」という分類の中の「Gender Incongruence（性別不合）」に変更されることになり、これにより、出生時に割り当てられた性別への違和が「病気」や「障害」ではないと宣言されることになったこと。
- 国際的には、現在、同性婚および登録パートナーシップなど同性カップルの権利を保障する制度を持つ国・地域は世界中の約20%の国・地域に及んでいること。また、世界経済をリードする国際首脳会議「G7」において、同性婚を認められていない国は日本だけであること。
- 来年開催される東京オリンピックについて、スポーツを通して差別のない社会の実現を掲げるオリンピック憲章があり、IOCは、2014年に憲章を改訂し、同性愛者への差別も許さない方針も打ち出していること。
- 同性カップルが直面する日常生活上の困難については、賃貸住宅が借りられないことや、病院における意識不明時の医療意思決定などのほか多岐にわたっていること。
- 同性パートナーシップ制度については、2019年9月現在、全国で26の自治体が導入しており、導入予定は17自治体、検討している自治体は29あること。
- 同性パートナーは全体的な割合からすれば少数ではあるが、日常生活に苦しんでいる人がいることを理解してほしい。
- 同性パートナーシップ制度については、市民の理解や周知が進んでから、制度を作るのではなく、まず、行政において先に制度を創設してほしい。そして行政が、同性パートナーシップ制度を推進していることをアピールすることで、市民の理解が広がっていくと考える。前向きに検討をお願いしたい。

会長…講演を受けて、今後引き続き、第4次プランと合わせて協議していく。

(2) 男女共同参画にかかる市民意識調査について

事務局…資料2に基づき、男女共同参画にかかる市民意識調査報告書について説明。

【質疑応答】

専門員…資料2の3、就業についての【女性が働き続けるためには】の①配偶者・パートナーの家事・子育てなどへの理解と協力というのは、どの部分を指しているのか。

事務局…報告書P100の(14)女性が働き続けるために必要なことの1位「配偶者・パートナーの家事・子育てなどへの理解と協力」を指している。

専門員…女性が働き続けるには、配偶者やパートナーの理解がないとできない、というように読み取れてしまう。このようなまとめは啓発において本意ではない。現実にはそういうことがあるが、設問の聞き方に考慮が必要だった。

委員…【「男は仕事」「女は家庭」という考え方について】、10年前の調査と大きくは変わっておらず、「どちらとも言えない」人が増えているという話だが、「同感しない」は9.2%→12.9%へと3.7%増加している。同感する人は減少している。そこを評価すべきである。平成20年時の調査と比べて基準が違っているので、そこをどのように解釈するかが課題。

専門員…「家庭生活」において“平等になっている”は男性が41.4%で女性が25.8%と大きく差がある。すべての分野で男性に比べ女性の方が平等感が少ない。また、若い男性ほど、平等と感じている傾向がある。

会長…依然として、男女の感じ方の違いには大きな差があるようだ。

委員…「その他」という選択肢がたくさんあるが、それを選択した方の内容（意見）も大事であると思う。

委員…【男は仕事、女は家庭という考え方について】、「どちらとも言えない」が増えたことが男女共同参画意識が進んでいるという解釈は違うのではないか。

委員…P57の(介護・介助が必要な家族の世話)について、「介護(介助)の対象が誰なのか?」によって変わってくる。例えば夫が「自分が全部やる」と言っても、自分の両親だけで、妻の両親についてはやらない。

一方、妻が全部やるという場合、自分の両親に加え夫の両親も、という場合もあり、見えないところがたくさんある。

P130の「身近な人がLGBTだった場合、これまでと変わりなく接することができますか」と言った問いは、今後、より敏感に変わっていくと思う。

今の社会は異性愛中心で動いており、様々な分野で意識としては理解があるつもりでも、言葉やマナーの面では無意識で相手を傷つけているところもあると思う。

自由意見欄で、「男女に関係なく、人間として」という言葉や、「男女共同参画」の名称を今後は「男」と「女」を区別しないで、例えば「市民共同参画」などにしてはどうか」という意見があったが、この言葉の背景には男女共同参画への抵抗や批判のニュアンスもあるのではないかと思う。

市のセミナー等でもよく話題にあがり残念なのだが、一人の人間として尊重するという前提がなく（現状は男性と女性の偏りがあるところを是正しようというのが男女共同参画の本意だが）、「男女共同参画は男と女にこだわっている」と思

われてしまう部分については、そうではないということを伝えていく必要があると思う。

現に存在する男女間の格差の是正が目的であるのに、「市民」のように言い換えられてしまうと、真意が伝わらない。現状を伝えていかないと理解されなくなってしまう。ポジティブアクションについても働き盛りの 30~40 代男性が批判的であった。

非正規やロス・ジェネレーション等、雇用が厳しい状況において、男性にとっては女性だけ得するということには批判的になっているだろう。「男らしく」「女らしく」「自分らしく」について、雇用機会均等法の前文の目的においても「男女が性別に関わりなくその個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現」とうたっているが、「男らしく」とか「女らしく」でなく「自分らしく」と簡単に言い換えられる場面が多くあり、「自分らしく」というのはそのとおりであるが、男女間の差別を無くすという観点がなくなってしまう。

こういったアンケートを見てもそういった差別について見えていないという意見がある。

委員…70 歳以上の高齢者には、男女共同参画は若い方の問題といったような諦めがあるように感じる。昔はこういうのはなかった、自分たちはこうだったということで若い人たちにあまり良い反応をしないのかなと思う。各町会を見ても男女平等は反映されていない。正副会長や三役は男性ばかりで、「女性に相談しても（仕方ないかな）」「とりあえず男性ばかりがちょうどよいかな」という感じで常任委員会等で男性の意見をまとめて会議に向かう、ということが多く、女性の意見がなかなか出てこないと感じる。行政に対して丸投げな部分も見受けられる。

委員…かなりページ数のある調査であり、回答いただいた方も、かなりの時間を費やしたのではないかと思う。その中で回収率が前回より上がっているということは、市民の意識も上がってきているのだと思う。自由意見欄でもいろいろな立場で、自分の考えを自分の言葉で書いてくれているのを見ると、男女共同参画について考える人が増えたのだと思う。

委員…商工会という立場から、職場が平等になっているというのが、前回より低くなっているのは残念。育児・介護休業制度等については広報しており、女性活躍推進の説明会やセミナーも広報している。さらなる啓発をしていきたい。

委員…家庭のこと、DV のことについても調査結果により高齢者の我慢強さを感じた。防災については、女性の細やかなことを皆が理解し、活かす必要があると思う。

委員…DV について相談を請け負っているが、女性から男性への DV が 20 年前と比べ増えている。また近年では男性（夫）が何もしてくれないという女性の意見もあるなど、変わってきている。

委員…自由記述欄には「男女共同参画」でなく「市民参画」で、という具体的な意見もあった。また、若い人への PR を、という意見が多くあり、SNS の活用につい

てのコメントもあった。

委員…学校教育について、平等になっているという若い年代が多かったが、20～30代は下がり40代は上がり、また男性50代も上がっているという現象はどこからくるのか気になる。また「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というのは男女の感じ方に違いがあった。P120の妊娠・出産については小・中学校で「いのちの授業」を行っている。

専門員…P177のLGBTについて、「差別には反対だが（人権は尊重するが）区別は必要と考える」というのがまだ世間の一般的な考え方かと思う。男女共同参画についても男女の区別は必要だというのは以前からずっとあり、「男らしさも女らしさも認めていこう」という考えが残っている。アンケートの設問項目について検討はしたが、尋ね方についてもっと検討が必要だった。また、女性の視点が必要、ということと女性の細やかな視点が必要、というのは微妙に違う。細やかでない女性もいるかもしれないし、細やかな男性もいるかもしれないので、言葉の使い方は注意が必要。

委員…回収率が45%とのことだが、年齢別の傾向などより詳しく知りたい。自由記述欄は勉強になった。特に印象に残るのは、市の取り組みが知られていないことが残念。条例やプランを知っているかということも大事ではあるが、それ以上にいろいろな部署で男女共同参画の観点を持って様々なイベントを行っているということが知られていない。アンケートは啓蒙の役割もあるので、もっと身近なところで男女共同参画に関係していると伝える内容がなかったことが残念。

自由記入欄の中で、「男女共同参画」でなく「市民共同参画」という意見はなるほどと思った。富士見市が目指す社会は強制的・画一的にならず個々の価値観をもって選択することのできる社会であるという意見もあった。富士見市ならではの先進性のある施策を望むという意見もあり、第4次プランにどう結び付けていくかである。

アンケートというのは時系列で変化を見ることも大事である。平成20年からの変化を知ることも大事。アンケートに答えてくださった方にどうフィードバックするか真剣に考えていく必要がある。広報紙の中に一枚用紙で挟むなどしっかり報告してほしい。また、アンケート回答者の中から希望者に住所と氏名を記入いただき報告書を送るというようにしても良かった。このデータをどう第4次プランに反映するか。結果を無にしないようにしたい。

委員長…第4次プランへどう反映させるかが大きな課題である。自由記入欄の市民の声は非常に参考になる。

その他

事務局…令和元年 11 月 30 日（土）ピアザ☆ふじみにて LGBT のセミナーがある。

参加及び周知をお願いしたい。

事務局…次回会議の日程の候補は 1 月下旬で設定したい。日程等調整し改めてご連絡する。

閉 会

副委員長…市民意識調査について、他に思いついた意見があった場合は事務局へ連絡を。

終了時間 12:10